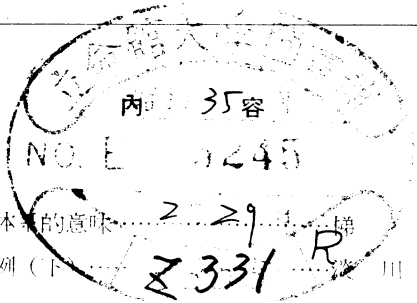


# 立命館經濟學

第二卷 第一号

昭和二十八年二月



## 論 說

- 資本論冒頭文節の体系的意味…………… 梶 野 秀…………… (1)
- 郷土産業考察の一例 (下)…………… 渡 田 庚…………… (39)

## 講 座

- 任意標本調査法 (下)…………… 関 弥 三 郎…………… (51)

## 研 究

- 近世山城における在郷商人の商業経営  
について…………… 足 立 政 男…………… (83)  
——乙訓郡神足村綾油商「油屋弥兵衛」について——
- O. H. Taylor のジュムベーター学説における「帝国主義論」  
「社会階級論」の位置づけについて…………… 浜 崎 正 規…………… (113)

立 命 館 大 学 經 済 学 会

立命館大学経済学会寄贈

立命館経済学

第一卷・第四号

論説

資本主義社会における小農経営

阿部 矢二

企業の指導原則としての収益性

祭原光太郎

教父のおよびスコラの所有観

高橋 良三

郷土産業考察の一例(中)

淡川 康一

講座

任意標本調査法(一)

関 弥 三郎

書評

労働問題に関する新著三つ

平 田 隆 夫

(1) 米国連邦労働省編、「米国労働運動史」一九五二

(2) 国際労働局編、「永続的平和と国際労働機関の進

路」一九五二

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第一卷第五・六号

末川博士還暦祝賀論文集

経済学と地理学との関係

農地改革の結果の二・三について

近世における畿内在郷商人の高利貸資本

について  
——山城国乙訓郡神足村絞油商屋弥兵衛  
(現岡本家)の場合——

中小企業対策としての調整組合に関する

問題点

リカアドオ理論における貿易による搾取

の問題

わが国漁業における共同経営の典型

資本論の学的体系性

——冒頭文節の体系的意味を分析するための序説

として——

経営における職制組織

東南アジア貿易の振興と経済開発に

ついて

労働協約と社会保障

ドック恐慌論の検討

ヒュー・ダルトンに於ける経費に関する

理論

財閥解体政策の基盤とその変遷

——日本経済の従属化と軍事化への序説

アメリカにおける労働組合の特質と協約の

パターンに於けるアクセルレイション問題

米国に於けるアクセルレイション問題

フイリップ・シドニーに就いて

淡川 康一

阿部 矢二

足立 政男

井上 巖次郎

井上 次郎

大山 救太郎

梯 明秀

祭原光太郎

高見 沢茂

平田 隆夫

松田 弘三

箕浦 格良

武藤 守一

森川 信

守都宮 巖

岡橋 祐

発行所

立命館大学人文科学研究所